

週報 第3132回

会長 植村 勢彦 副会長 原 正人
幹事 渡辺 万寿 S A A 西田 佳郎

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501

メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会(2021年10月15日)

■ プログラム

卓話担当 西端 政博 会員

■ 次週のプログラム

10月22日:卓話担当 梶井 善章 会員
卓話講師 泉大津税務署長 加藤 浩 様

■ 今後の予定

・10月29日:卓話担当 梶井 善章 会員
・11月5日:クラブフォーラム
藤原 重行 ローター財団、
地区学友小委員会委員長
講師 国際ロータリー第2640地区
前 ロータリー財団委員長
初田 隆生 様(和歌山北RC)

■ 祝 誕生日 なし

■ 今月のロータリーソング

手に手つないで

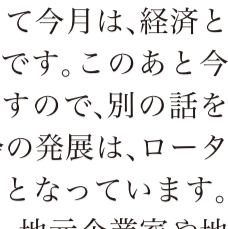
今月の歌

ふるさと
うさぎ追ひし かの山
うぶな釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

■ 先週の例会

会長の時間

今日から緊急事態宣言が解除されましたが、心情的にはまだ不安です。旅行に行きたい・外食したい・飲みに行きたい・ショッピングに行きたいなど、マグマが沸々と湧いていますが、どんな感じで爆発をするかによって、大きなパウンドもありそうです。また29日に自民党の岸田新総裁が決まりました。これからの日本が良くなる事を祈ります。そして今月は、経済と地域社会の発展月間と米山月間です。このあとと今井委員長のフォーラムがありますので、別の話をさせていただきます。経済と地域社会の発展は、ロータリー財団の6つの重点分野の1つとなっています。貧しい地域で、特に女性をはじめ、地元企業家や地域リーダーの育成を応援しています。ロータリアンが「人」に投資し、地域社会や人々の暮らしに持続可能で測定可能な改善をもたらし、発展に関連する研究を支援しています。ロータリーの価値と、高潔な心を持つ人のコミュニティにおける友情と人脈作りにあります。このために、その期待にふさわしい組織づくりを4つのテストに基づき今の時代に合う組織づくりが大切だと言われています。私が入会した当時は、ロータリアンは自分の職業



植村 勢彦 会長

■ ビジター なし

■ 出席報告 会員数43名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
10/1	35名	8名	—	81.40%
9/17	32名	11名	2名	79.07%

■ メークアップ

榎本(9/9 高師浜RC)
寺田(9/3 理事役員会)

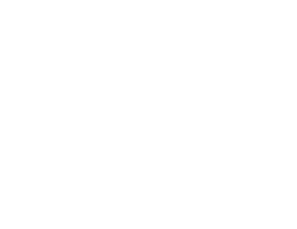
■ ニコニコ箱

・今井さん、本日のクラブフォーラム宜しくお願いします(植村)
・今井委員長、宜しくお願いします(渡辺)
・お祝いありがとうございます。今井委員長、今日はクラブフォーラム宜しくお願いいたします(西田)
・早退のおわび(延山)

ニコニコ箱合計	11,000円
累計	215,000円

■ 祝 誕生日

西端 政博(3日)



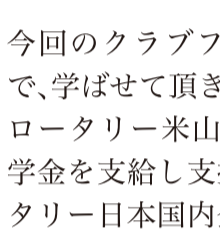
を通して社会に貢献すること。例えば会社を健全に経営して、従業員・その家族が幸せになる様にする。そして、利益を確保して税金を納税することも社会貢献で大変な役割ですと言われました。解りやすく言えばそれが、I serveです。最近I serveについてちょっと勉強しましたら、1920年代の手続要覧、そしてポール・ハリスのスピーチでも話されていないそうです。そしたら、いつ頃誰が言い出したものか、何人かのPDG(バスターガバナー諮問委員会)が「ロータリーにおいては、アイ・サーブこそ本質的なものでありますが、アイ・サーブだからウイ・サーブはやるべきではないとか…そんな〇×的な思考をする必要はない…」と結論しておられます。すなわち「一人でする奉仕活動と皆で揃ってする奉仕活動」くらいの薄い意味付けの程度にしか理解されていない」と言うことだそうです。アイ・サーブという言葉は、「職業奉仕の大切さを解くために、後世、日本的解釈が付与されたのであらう」と思われます。(職業奉仕意識=I serve)ちなみにボランティアとは、自発的にに行い拘束されない、無償で志願をして災害現場等で活動する。奉仕とは、他人や社会の為に尽くし有志が集まって清掃等、感謝の気持ちで行います。そこで当クラブはオリジナルティーに、フェロシップを大切に、service above self「超私の奉仕」に向けてコツコツと継続は力なりではないですが、I serve「職業を通じて奉仕をする」事の大切さが、解って来た様な気がします。これからは私は、一生勉強・一生青春です。

■ 幹事報告 渡辺 万寿 幹事

○本日メールボックスに米山月間の資料として豆辞典が入っております
○2021泉大津未来ビジョン協賛金10万円を職業奉仕部門会計より支出しております。11月7日(日)・13日(土)・14日(日)の各種イベントで使用できる金券を少しいただいておりますのでご利用の方は事務局まで申し出下さい
○来週8日(金)の例会は定款の規定により休会となります
○本日例会終了後、理事役員会が開催されますので関係者の方はみまやびの間にご参加お願い致します

先週のプログラム

クラブフォーラム



米山記念奨学金委員会委員長
今井 克範

今回のクラブフォーラムを開催させてもらう事で、学ばせて頂きます。

ロータリー米山記念奨学会は、外国人留学生に奨学金を支給し支援する奨学財団です。これは、ロータリー日本国内全地区合同プロジェクトとなっており、全会員が寄附金行為という形で事業参加しています。

寄附金には、普通寄附金と特別寄附金があり、普通寄附金はクラブ会費の徴収時に一緒に払い、特別寄附金は、個人名や法人名で個別に各自が行う寄附金行為です。ですので、個人で特別に寄付しなくても毎年クラブから会員分の寄付をしています。

米山記念奨学会は、日本のロータリークラブの生みの親でもある、故米山梅吉氏の日本国内でロータリーも設立に対する功徳を称え「米山基金」を設立した事に端を発しています。

日本のロータリーの歴史と日本の歴史を共に見ていくと、大正時代の1920年東京ロータリークラブが設立され、1922年大阪ロータリークラブの設立、1945年第二次世界大戦終戦後の復興期の1952年に東京ロータリークラブで始められた事業が米山基金です。1954年~1973年高度経済成長期の最中の1956年泉大津ロータリークラブが設立されましたが、それよりも古い歴史をもちます。戦後復興期で高度経済成長期前の混沌としている時代に、米山氏含め、当時のロータリアンたちの強い意志があったことと思います。

その後、1967年、文部省(現在の文部科学省)の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となり、現在は、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会という名称となっています。

設立当初の意義を70年ほどとも継承発展しながら継続している素晴らしい活動だと認識しました。

ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄附金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体となっています。

目的

1、米山奨学生は月に一回例会へ出席
2、奨学金の受け渡し
3、スピーカーその他、親睦活動・奉仕活動への参加
カウンセラーとは？

奨学生1人に対し、世話クラブのロータリアンの中から1人がカウンセラーとなります。カウンセラーは、奨学生の個人的ケアにあたるアドバイザーです。

様々な職業、世代で構成されるロータリークラブでの交流は、奨学生が日本文化に接し、将来や奉仕について考える機会となります。米山、奨学生とロータリアンの交流は、相互理解のみならず、双方にとって財産となるものです。

やはり、この米山記念奨学事業を泉大津ロータリークラブとして意義ある事業活動として継続して行くには、今後も世話クラブを役回りとして行ったりする必要があります。そして感じます。

ロータリー財団にも同じ制度がありますが、米山奨学事業の制度として、学友会という奨学生の同窓会組織があり、学友同士の親睦に留まらず、独自の奉仕活動を立ち上げたり、現在まで自らがロータリアンになった米山学友も257名いるとの事です。また、米山学友からも寄附金が行われており、累計で4000万弱という額になっています。

恩返しというか、受けた恩を後輩に対しての寄付行為で貢献する姿勢は、米山奨学制度の意志をしっかりと理解しているからでもあると思います。

今回国際奉仕の委員会になったことで、このロータリークラブの寄付行為の意味を知りきっかけとすることができました。

米山奨学事業は、あくまで、外国人留学生の奨学支援になり、日本人は対象となっていません。しかしながら、ロータリークラブには、国際奨学事業が3つあります。

ロータリー財団による奨学金、青少年の国際的な学生交換と米山奨学金です。ロータリー財団による国際親善奨学金は、外国へ留学する日本人に対して費用を負担しています。それと日本の若者に対しての国際青少年交換を行っています。

日本のロータリークラブ活動は、日本人学生の支援と外国人学生の支援をともに、国際理解をベースにしたグローバルな貢献活動だと認識しました。

まだまだ、理解を少ししただけで、実際にどのよう

な活動をしてこられたのか、これから学んでいくことになると思いますが、私の個人的な関心ごととして、お話しさせていただきます。これらの日本人と外国人の留学生はともに、意識の高い人たちだと思います。彼らと私たちが今後、どのような形で接しながら、国際理解教育や国際親善のあり方、世界平和に対する協働の仕方を、どうやって共に理想に対して歩めたら良いのか考えながら活動する必要がありますと感じた事と、どちらかと言うと日本よりも外国人の方がグローバルに国際交流の事を考えられる環境になっていると感じながら、日本の若者たちに、このような留学生と触れ合う機会をもっともってもらうことで、子どもや年配層までを含めた地域や日本の方たちの関心事の層上げを図る必要性を感じ事が大きい事です。

例えば、国際理解教育とは、互いの文化や考え方を知ることと双方の「違い」を理解し、相手を尊重することで相互理解の態度を養う教育のことですが、この島国では、外国人留学生と触れる学び合う機会が実際少ない現状があり、それゆえ、この国際理解教育は、実地で、現場で、リアルで触れ合うことで、よりよい形になっていくことだと思われるからです。今は、なかなかコロナ禍で事業活動自体が困難な部分もありますが、今後、さらに日本と外国の融合が行われていく中で、米山奨学事業の意義は大きいと感じます。

あと、米山奨学事業が外国人留学生を支援する事についてきっかけですが、

日本が戦後処理から復興へと向かいはじめた1952年、東京ロータリークラブで、海外、特にアジア諸国から優秀な学生を日本へ招き、奨学を支援する奨学事業「米山基金」の構想が発表されました。既に故人だった米山翁の名を冠したのは、生前、アジア人留学生の面倒をみていた米山翁の遺志を継ぐ最もふさわしい事業であり、日本のロータリーに偉大な足跡を残した米山翁を永遠に偲ぶことのできる「無形の金字塔」にしたいと考えたためでした。何よりその背景には、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したい、自分たちが世界の人々と友情を結ぶことができることと証明したい、という当時のロータリアンたちの強い願いがありました。という事です。

設立当初の意志である、国際親善、世界平和の理念は継承され続けています。ここで、少し考えさせられました。設立当時戦後復興のために、歴史を繰り返さない、国際平和に強く向かう意識があったと思います。私たちは戦後生まれで、私も高度成長期の中で育った人間として、日本国内での平和は、

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3132回

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3132回